

地域に活力を与える林業生産体制整備事業・優良種苗確保事業

(執行委任：農林水産部森林・林業経営課)

企画調整課 中山伸吾

1. 採種源整備事業

二本木地内の採種園・採穂園を対象に、下刈り 2.36 ha (延べ面積) を実施した。

森林環境研究課 奥田清貴

2. 採種園・採穂園改良事業

(1) 原種保存

採種木、採穂木の原種保存のため、挿し木苗の養苗を行った。

(2) 少花粉スギのミニチュア採種園の管理、種子生産

平成 28 年 3 月に人工交配し、着果球果にカメムシ被害防除のための網袋を設置した。10 月に球果を袋ごと採取して、得た種子 2.2 kg (発芽率：25.5%) を三重県林業種苗協同組合連合会 (県苗連) に売り払った。

次年度の種子生産のため、6～7 月に採種木 80 本に対してジベレリン 100 ppm 溶液を 2 回散布処理して着花させ、平成 29 年 3 月に人工交配した。

(3) 特定母樹及びエリートツリーによるミニチュア採種園の維持管理

構内に造成したスギ特定母樹採種園 (120 m²)、スギエリートツリー採種園 (141 m²)、ヒノキエリートツリー採種園 (220 m²) の維持管理を実施した。

採種園内の特定母樹を対象にして、スギにジベレリン 100 ppm 溶液を散布、ヒノキにはジベレリンペーストを剥皮注入して着花させた。スギは人工交配したが、ヒノキは 10～11 月の気温上昇で雄花が膨らみ 12 月の低温で大部分の雄花が枯死したため、ハウス内での自然交配は中止した。

(4) 特定母樹の増殖

スギ、ヒノキ特定母樹の発根率を確認するため、穂木採取が可能な採穂木、採種木から採穂し、スギ 18 クローン 1,534 本、ヒノキ 14 クローン 743 本の挿し木を実施した。

(5) マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ採種園の造成準備

関西育種場から購入した接ぎ木苗木 (14 クローン) を苗畑で育成管理した。

3. マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの種子生産

川口採種園に設定してあるマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ採種園 (0.5 ha) から採取した種子 0.8 kg (発芽率 64.5%) を県苗連に売り払った。